

チーム名	愛媛大学井口研究室	大学名・学部	愛媛大学・社会共創学部	ニューノーマルステージ
プラン名称	えひめ東予・せとうちイチハチworkcation—「18才」が地域をつなぐ観光まちづくり—			
テーマ	ニューノーマル時代に対応する観光まちづくり			総合2位 優秀賞 クリエイティブ賞
リーダー名	松下真佑	メンバー名	渡部美咲、岡本悠暉、岡野尚人、坂本夢衣、瀧田那月、後藤あゆみ、青木稜悟	
指導教職員名	井口梓			

えひめ東予・せとうちイチハチ workcation — 「18才」が地域をつなぐ観光まちづくり—

1. 現状と課題

COVID-19の拡大で“仕事と余暇の価値観”の変化

ワーケーションの急拡大

一方で

こんな課題も…

ブームは今後も続くと予想

ワーカー

- ✓仕事と余暇の線引きが曖昧
- ✓会社の理解が得られない
- ✓仕事環境・通信環境に不安

企業

- ✓適切な労務管理が難しい
- ✓必要性を感じない
- ✓生産性が落ちる

地域

- ✓類似事例が多く差別化が必要
- ✓短期間滞在 + 主要観光地の詰め込み
- ✓地域住民との連携が不十分
- ✓地域に経済効果があまりない

課題解決により三方良しのワーケーションが可能に！
地域の観光まちづくりにつなげる！

2. 地域選定と分析

観光課題・地域課題



対象地域：愛媛県東予地方

- ✓瀬戸内のブランド力・観光資源の活用 ×
- ✓高齢化・人口減少
- ✓経済低成長

ワーケーションの視点からみた東予地方の強み

- 瀬戸内ブランド資源
- 県内有数の農村地域
- インフラ整備の充実
- ワーケーションへの理解

東予地域の資源や人材を最大限に活かし
企業にとって付加価値のあるワーケーションを提案

3. 提案



せとうちイチハチ workcation
瀬戸内の東予地方5市町でプログラムを通して、ワーカーが18才の高校生と連携し、18才のあの頃に戻るワーケーション

概要

場所：東予地方5自治体から一つを選択
期間：2週間から
予算：264,000円から



18才は重要なエントリーポイント
経験したことが将来につながる年齢
ワーカーが当時を思い出し自分を見つめ直す

- Point 1 ワーキング施設は高校の遊休施設
- Point 2 高校の時間割式ワークタイムを導入
- Point 3 18才(高校生)との交流プログラム
- Point 4 平日13:30からのローカルパッケージ

4. 効果

ターゲット

ワーケーション導入可能だが
未実施企業 260万社

利用想定
260万社中の0.1%として

2,600社

1社3名参加で 7,800人

経済効果

- 地域内への効果…12億円
- 地域外への効果…2億3千万円
- まちづくりへの還元…6億1千万円

企業・ワーカーへの効果

企業の躊躇の原因

導入することで

- ✓仕事と休暇の線引き
 - ✓労務管理
 - ✓仕事・通信環境
 - ✓仕事効率の低下
 - ✓必要性なし
- 導入することで
- 仕事と余暇にメリハリがある環境を提供
 - 快適に働ける環境で仕事が可能
 - 最適なリズムによる仕事効率の向上
 - 企業のビジネスチャンス提供

東予地方全体への効果

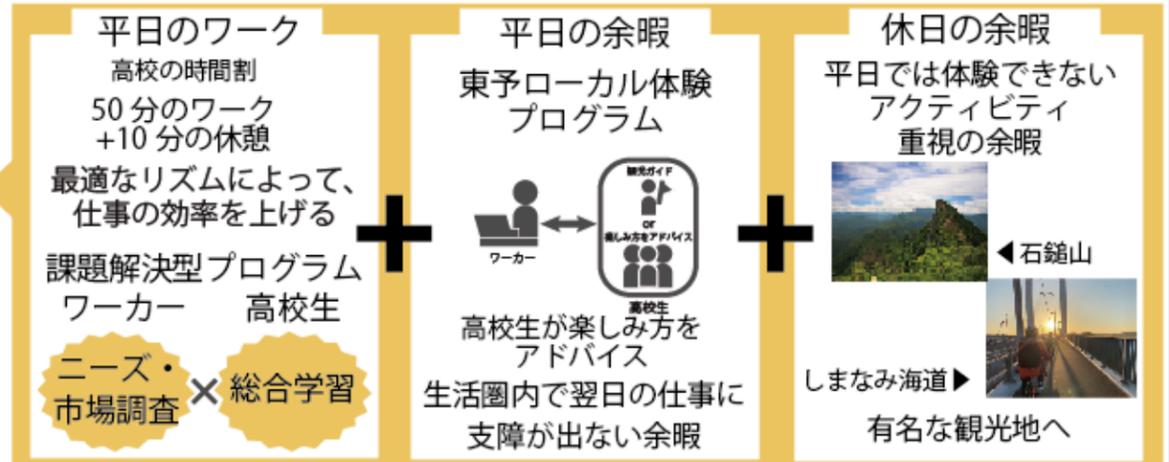
課題

導入することで

- 2 主要観光地の詰め込みプラン
 - 4 地域にお金が落ちない
 - 3 地域の巻き込みが不十分
- 直接的効果
- 観光資源の再評価
 - Z世代がみた新たな観光スポットの発掘
 - 平日における消費活動の増加
- 間接的効果
- まちづくり/関係人口・交流人口増加へ
 - 高校生のキャリア支援(Uターン・流出対策)

5自治体の年間経済効果は
= 20億4千万円

マイクロツーリズム
高校生こそ 次世代型観光 の担い手
地域資源の利活用



まちづくり型 NPO がワーケーションをコーディネート

NPO 団体イチハチ workcation 協会設立(仮)



作成したコンテンツを集約したWEBサイト